

## 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

開催日時	平成 29 年 2 月 14 日 (火) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで	開催場所	八潮メセナ 3 階 会議室 1・2
出席者 (敬称略)	(1号委員) 福野幸央、平本なるみ、古庄正登、大野ヒロ子、齋藤勝、右川清夫 (2号委員) 多賀谷一照、仲田政司 (3号委員) 野口ノリ子、宮弘美		
欠席者 (敬称略)		傍聴者数	4人
審議内容及び審議結果の概要	<p>八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 市長あいさつ</li> <li>3. 会長あいさつ・委員紹介</li> <li>4. 議 事 <ul style="list-style-type: none"> <li>・八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について</li> </ul> </li> <li>5. その他</li> <li>6. 閉 会</li> </ol>		
提供資料	<p>八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会次第</p> <p>資料1 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会規則</p> <p>資料2 八潮市附属機関の会議の公開に関する規則</p> <p>資料3 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿</p> <p>資料4 平成28年度 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価調書</p> <p>追加資料 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 質問一覧表</p>		

## 【議事詳細】

### 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

---

#### 1. 開会

#### 2. 市長あいさつ

#### 3. 会長あいさつ・委員紹介

#### 4. 議事

- ・ 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

##### ◎基本目標1

・事務局から、基本目標の趣旨、数値目標、事業の状況について説明した。

・事務局から、事前質問とそれに対する回答について説明した。

・(会長)委員から補足はあるか。

・(委員)通勤時間帯に産業道路を走行しているバスに人が乗っておらず、無駄なバスの運行だと感じる。

また、柳之宮橋の架け替えについて、平成 27 年度の第2回会議でも話をしたが、埼玉県の実業であり、時間がかかるということであった。柳之宮橋から一本下流に桑袋大橋があるが、その付近までは、谷塚駅からバスが何便も運行している。そのバスを八潮市内まで通すことができれば、八潮市と東武伊勢崎線とのアクセスが、今以上に良くなると思う。特に、浮塚や大曽根地区の方にとっては、非常に良いものとなるのではないかと。さらに、現在、草加駅と八潮駅間では頻りにバスが運行しているが、大曽根地区の南部の方は陸の孤島のようになっている。バスを運行することにより、社員の自家用車での通勤が少なくなるのではないかと思う。

先ほどの事務局からの説明で有効求人倍率の平成 26 年度、27 年度の数値があったが、その後はどのくらいか把握しているか。

・(事務局) 八潮市の有効求人倍率は、月別で 1.41 や 1.59、1.91 など、平均して 1.50、1.49 あたりで推移している。

・(委員)先ほどハローワークの所長に確認したところ、八潮市の有効求人倍率は急増しており、2.0 である。平成 28 年から急に上昇しており、人手不足で各企業が大変困っている。このことから、就労支援の充実を図って欲しい。例えば、若いお母さん方が、保育所等に子どもを預けられないことを理由に、働きに出られないということが非常に多い。そのため、若いお母さん方の働きやすい環境を整えるため、保育園や幼稚園の増設を考えて欲しい。

・(会長)今の話は基本目標1というよりは基本目標3か。

・(委員)そのとおり。

・(会長)今の話は基本目標1と基本目標3に関わっているため、子育て支援については、基本目標3で審議する。

・(会長)他の委員からの意見を聞く前に、追加資料、最初のバス交通の課題について話したいと思う。これは基本目標のどこにも位置付けられていない。このことについて、事務局から説明をお願い

する。

・(事務局)委員から質問があり、事務局において整理した。この場合のバス交通の充実については、就労や雇用に対する支援としての取組と考えられる。このため、基本目標1と整理したが、当該総合戦略に該当する事業はない。なお、バス交通に関しては、第5次八潮市総合計画において「バス交通の充実」として位置付けており、バス路線の利便性の向上について取り組んでいる。

・(会長)コミュニティバスの利便性の向上は、第5次八潮市総合計画において取り組むことにより、基本目標1に結果が反映されるということか。

・(事務局)当該総合戦略の直接の事業ではないが、効果については総合戦略内でも反映される取組である。

・(会長)その他、基本目標1について質問、意見はあるか。

・(委員)八潮市は、東京都心から 15km 圏内にあるにもかかわらず、工業専用地域、準工業地域が多く、非常に人気の高いエリアである。民間企業においても、なかなか空き不動産情報を入手できない状況である。資料4、13ページ「企業立地推進事業」において、KPIとして「誘致に向けた情報提供数(年間)」を設定し、平成 27 年度の計画値を 10 件としているが、実績値は 12 件ということである。どのような事例があったのか教えて欲しい。また、情報提供をしたことにより、企業が進出できた事例はあるのか。

・(事務局)企業が進出できたという事例はない。情報提供については、埼玉県企業局や八潮市において、工業団地を整備し、分譲するのであれば情報提供が可能であるが、市内においては、そのような話はない。また、市内では、建て替えはあるが、民間の商業ベースにおいて売買されている。問い合わせの内容については、「八潮市に引っ越したいが、土地はどのような場所にあるか」、「用途地域は何か」などがあり、内容に応じて関係課に照会している。また、「2,000 m<sup>2</sup>程度の土地はあるか」、「空き不動産は工業専用地域内にあるか」という問い合わせもあるが、八潮市は、不動産に関する事業者ではないので、マッチングさせるのが難しい状況である。しかし、創業を増やすという意味で頑張らなければならない事業であると考えている。

・(会長)総合戦略は、過疎地などの空き家の多い地域での話がベースとなっている。八潮市では、そこまでの状態ではない。ある程度の需要と供給があるので、取組成果としての数字が上がっていないことが直接問題であるとはいえない。

・(会長)その他に意見等あるか。

・(委員)資料4、14 ページ「北部拠点まちづくり事業」があるが、北部地域は、八潮市内で一番と言って良いほど住みにくいところである。農業を進めつつ、住みやすい環境づくりを進めて欲しい。

・(会長)その他にあるか。

・(委員)資料4、7ページ「中心商業拠点の形成事業」について、八潮駅周辺には、かなりの商店数が増えてきているが、何年経過しても活性化していない。平成 17 年に八潮駅が開業してから 12 年になるが、商業集積調査については、すぐに実施できるのではないか。

・(事務局)八潮市内の商店街は、全部で7つある。平成 17 年に八潮駅が開業してから、八潮駅周辺を中心に商店が立ち並んできている。駅周辺では、商店が多く立地してきているので、ここに商店街などの組織を立ち上げて、それを契機に今ある既存の商店街と連携を図ったらどうかと考えている。しかし、駅周辺はチェーン店が多いので、各店舗の本社などへの意向等を確認する必要がある。そのため、事業化し、商店に対してヒアリングを行っていききたい。しかし、平成 29 年度に予算化できなかったこともあるので、やり方については今後考えていきたい。

・(会長) 他の地域では、中心商店街がシャッター商店街通りになってきているが、八潮市では、これから商店街が形成されていく過程にあるので他の地域とは状況が異なる。八潮駅が開業してから12年が経過するが、商店街が形成されるには、20～30年が必要となる。引き続き、八潮駅を利用する人々にどのようなニーズがあるのか調査が必要である。

・(会長)その他、何かあるか。

・なし

## ◎基本目標2

・事務局から、基本目標の趣旨、数値目標、事業の状況について説明した。

・(会長)事前の意見はないが、意見等はあるか。

・(委員)資料4、18ページ「基本目標別総括評価シート」に記載された平成27年度の実績数値について伺いたい。中川やしおフラワーパーク等の来場者数のカウントの仕方について教えて欲しい。また、それぞれの施設来場者数の内訳について教えて欲しい。

・(事務局)中川やしおフラワーパークについては、有料施設ではないため、カウントをしっかりと取ってはいない。基本的には、春・夏・秋・冬のシーズンごとの1日あたりの施設利用者数を聞き取り調査などを行い決めている。例えば、中川やしおフラワーパークについては、天候によって変動はあるが、春は1日100人で計算しており、4月から6月までの91日間で、9,100人として計算している。また、中川やしお水辺の楽校については、イベントで利用する団体から、活動利用報告書を出してもらっているため、そこから人数を積み上げている。さらに、やしお駅前公園では、基本的に公園の利用者をカウントしていて、公園を通過するのみの人はカウントしていない。

平成27年度の計画値の内訳については、中川やしおフラワーパークを7万人、中川やしお水辺の楽校を1万人、やしお駅前公園については、総合戦略の策定時にはっきり状況が分からなかったため計上していない。なお、それぞれの実績値については、19ページに記載している。

・(会長)その他意見はあるか。

・(委員)資料4、21ページ「コミュニティ施設整備事業」について、平成27年度の会議では、交流サロンの具体的な場所は決まっていなかった。しかし、平成27年度、平成28年度の計画値では、3か所となっている。設置場所は決まったのか。

・(事務局)交流サロンの場所については、1か所目として、生涯学習館2階に交流サロンがある。また、2か所目として、埼玉県からの紹介により、文化スポーツセンターの南側にある介護施設の1階スペースがある。さらに、3か所目として、コミュニティセンターにある読書コーナーを交流サロンの場としたいと考えている。

・(会長)その他、意見等はあるか。

・(委員)資料4、18ページ「基本目標別総括評価シート」にある「八潮市に「住み続けたい」人の割合」の平成28年度の実績値が50.6とあるが、この数値は、現在、八潮市に住んでいる20～40代の方からの回答であると思う。八潮市に住んでみて、八潮市の良さを分かったため長く住み続けたい、そういう話だと思う。八潮市は「住みやすさナンバー1のまち 八潮」を標榜している。これは、基本目標3とリンクするが、市内の方に八潮市の魅力をいかに伝えるかによって、市にとどまってもらえるかが変わってくると思う。

新しく転入してきた人が、「なぜ、八潮市を選んだのか」について、何か調査結果があれば教えて欲しい。また、実施したことがないのであれば、今後、そういったものを実施してみたいか。

・(事務局)総合戦略の策定にあたり、「八潮市定住等に関するアンケート調査」を行った。その結果、東京都特別区に居住の方が居住地に求める条件として「交通の便」、「買い物の利便性」、「治安」、「住まいと職場の近接性」を求める声が多かった。現在、転入人口を増やすために、八潮市シティーセールスプランを策定している。まず、八潮を知ってもらうために、イベント情報や子育て支援などの市の情報を発信し興味を持ってもらい、定住や転入の促進に繋げていきたい。この計画は、平成 29 年 4 月から実施する予定である。

・(委員)転入してきた人が、何を求めて八潮市に転入したのかという調査についてはどうか。

・(事務局)今、質問があった調査の実施については、第 5 次八潮市総合計画の策定の際にも検討事項とされた。「なぜ、八潮市を選んだのか」、「なぜ、転出したのか」について、調査実施に関して議論を行ったが、業務処理上の問題もあり実施できなかった。今後、人口増加施策を展開するにあたり、転入及び転出についての分析は必要となるので、ご指摘を踏まえ検討していきたい。

・(会長)その他、意見等はあるか。

・(会長)先ほどの、資料 4、18 ページ「基本目標別総括評価シート」の数値目標にある「観光資源」について、来場者数が平成 27 年度に比べて平成 28 年度の実績が下がっているがなぜか。

・(事務局)平成 28 年度の実績は途中経過であり、11 月末までの結果である。

中川やしおフラワーパークは、平成 29 年 3 月に花桃まつりがあるので、そこで来場者数はかなり増える予定である。

### ◎基本目標 3

・事務局から、基本目標の趣旨、数値目標、事業の状況について説明した。

・(会長)事前の意見はないが、意見等あるか。

・(委員)資料 4、24 ページ「基本目標総括評価シート」の数値目標にある「子育て環境」の満足度について、平成 25 年度の現状値が 8% である。この数値は、印象として低いと思うが、この数値は全国的にはどのぐらいなのか。

・(事務局)この「子育て環境」の満足度については、全国的に統一された調査ではないので他自治体との比較は難しい。20~40 代で 8% という数値については、厳しいものであるとの認識を持っている。そのため、総合戦略で取り組む事業として位置付け、重点的に実施していきたい。

・(委員)現状値は 8% と、かなり低く、また、平成 31 年度の目標値も 16% と低い。このようなペースでは遅いのではないかと。新しく転入してくる若い世帯は、子育てに関するものに一番興味があると思う。例えば、買い物などの利便性については、週 1 回にするなどの工夫ができる。しかし、子育てについては毎日のことで何十年と続くものである。この部分については、是非力を入れて取り組んでもらいたい。

・(会長)八潮市でも、子育て満足度を上げる方法を模索しているところであると思う。

・(委員)「地域人材活用推進事業」の KPI として、土曜勉強会参加者数がある。これはどこで実施しているのか。

・(事務局)「地域人材活用推進事業」については、36 ページに具体的に記載している。実施場所については、全小中学校で行っており、土曜日に理科の実験や英会話教室を行っている。

・(会長)その他、意見等はあるか。

・(委員)資料 4、32 ページ「小規模保育事業」にある待機児童数について具体的な説明をお願いします。

- ・(事務局)平成 27 年度の待機児童数、33 人については、平成 27 年4月1日現在の状況であり、保育園を利用できる条件は合致しているが、入園できない児童の総数である。
- ・(委員)平成 28 年度は、待機児童がないということか。
- ・(事務局)平成 27 年度に小規模保育所を6か所設置したことにより、87 名分の定員が増えた。その結果、平成 28 年4月1日現在では待機児童数は発生していない。
- ・(会長)今回、増えた 87 人については、保育が必要な児童の総数だったのか。
- ・(事務局)87 人と言うのは、平成 27 年度に整備した小規模保育所の総定員数である。
- ・(会長)市内で保育が必要な人数を把握しているか。
- ・(事務局)現在、市内全体で、1,000 人程度の児童が入所している。最新の状況についての調査はこれからである。
- ・(会長)現在、市内の保育需要についてどのような想定をしているのか。
- ・(事務局)大瀬小学校の南側に市内最大級のマンションが建設中である。駅前を中心に保育需要が増加すると想定される。これらに対応するため、保育所の計画的な整備が必要であると考えている。
- ・(会長)最初は保育所で、3～4年すると幼稚園、小学校と波及していく。中長期的な視点での対応をしていかないと満足度は上がっていかない。しかし、この想定は、今後順調に人口増があると言うのを前提としている。
- ・(会長)その他、意見等はあるか。
- ・(委員)資料4、24 ページ「基本目標別総括評価シート」の数値目標である「子育て環境」、「学校教育の質」の満足度を達成することにより、第5次八潮市総合計画の施策の柱である「健康福祉・子育て～誰もがいきいきと暮らせるまち～」を実現できるのか。  
また、「子育て環境」の満足度は、待機児童や学童保育などに対する事業により計れるものなのか。さらに、「学校教育の質」という難しい質問で客観性が出せるのか。平成 29 年度以降も成果を計るのであれば、ポイントを絞り、より具体的な指標とした方が良いのではないか。
- ・(事務局)子育て環境や学校教育の質などを成果指標として算出することは難しい。成果指標は、それぞれの事業が達成できたか否かを計る物差しとなる。学校や保育所をいくつ整備するかなど、具体的な指標は事務事業において定めている。この具体的な指標を達成することで、皆さんに良い効果が出ていると認識してもらえものと考えている。委員ご指摘の、具体的な指標にすべきと言う意見も、資料4にある「事業の状況」の成果を検証することで対応をしていきたい。
- ・(会長)アンケートでは、満足、やや満足、不満という項目となっているのか。アンケートに答えた人はなぜそのように答えたか理由は分からないのか。
- ・(事務局)質問については、どのように感じるかという質問となっている。また、自由筆記の中で理由について答えてもらったものもある。
- ・(会長)一度そのように指標を定め、アンケートをとった以上、経年的に数値を把握しなければならないので、指標を変えることは難しい。
- ・(事務局)現在、市でサービスを提供しているが市民に知られていないものもある。これらの周知により、満足度を高めるためシティーセールスを行っていく。
- ・(会長)今後、どの程度子育てニーズが増えていくのかは分からない。しかし、子どもが増えたがインフラが間に合わず、満足度が下がったというのは避けなければならない。その反面、施設を作りすぎるのも問題である。

- ・(会長)その他、意見等はあるか。
- ・なし

#### ◎基本目標4

- ・事務局から、基本目標の趣旨、数値目標、事業の状況について説明した。
- ・事務局から、事前の質問とそれに対する回答を説明した。
- ・(会長)委員からの補足はあるか。
- ・(委員)「住みやすさナンバー1のまち 八潮」の実現については、物理的な環境などのほかに、精神的なものがすごく大きく、地域のコミュニティが大切だと思う。能力があり発想豊かな人材を発掘し、地域リーダーとなるような人材育成をしてもらいたい。
- ・(事務局)コミュニティについては、はっきりとした定義がなく、追加資料に示した事業に参加していれば、コミュニティに参加していると言える。八潮市コミュニティ協議会で行っている花植え事業やフリーマーケットなどに参加することでコミュニティを形成していると言える。資料4、47 ページ「地域リーダー要請事業」にある地域リーダー養成講座は、平成25年度に一度実施しており、やしお市民大学2年生のカリキュラムの一環として行っている。今後は、やしお市民大学OB会、八潮市NPO団体連絡協議会、町会自治会と連携しながら、どのような講座を実施していくかを検討していきたい。
- ・(会長)その他、意見等はあるか。
- ・(委員)町会・自治会等の地域活動参加率が20.4%となっているが、近隣の市町との比較はあるのか。
- ・(事務局)この数値については、八潮市市民意識調査からの数値となっているため近隣の市町の数値はない。
- ・(委員)最近の都内のマンションでは、入居するときに強制的に自治会に入る仕組みがある。市民意識の高揚のためには、マンション所有者と連携をとったシステム作りが必要だと思う。なお、埼玉東部工業展を実施する場合は、5市1町で連携し情報交換などを行っている。近隣市との数値の比較ができると良いと思う。
- ・(会長)町内会への加入率について、データはあるか。
- ・(事務局)町会活動への参加率と加入率は異なり、今回の指標は、アンケートにおいて、地域の活動に参加している、又は時々参加していると回答のあった数値である。加入率については、近隣市では大体60%くらい、三郷市は80%を超えている。また、マンション居住者の町会加入率は下がっている。加入促進の取組として、水道部と連携し、水道の給水使用開始申込書と一緒に町会への加入申込書も渡している。
- ・(委員)資料4、46 ページ「コミュニティ意識の高揚事業」の「町会・自治会等の公民館を学びや遊びの場として開放し、活用する」ことについては、八潮市町会自治会連合会に依頼があれば賛同してくれる町会自治会は、いくつかあると思う。私の町会の老人会は、65人から80人ぐらいおり、児童に勉強を教えることはできると思う。
- ・(事務局)八潮市コミュニティ推進協議会では、3月に自分で計画を立てる研修を予定している。今後は、八潮市コミュニティ推進協議会で事業計画を立てたものを町会自治会に投げかけて協働で実施できるかを検討していきたい。
- ・(会長)その他、意見等はあるか。

・(会長)八潮市の中には、新しい住民が増えていて、その住民は町会自治会に加入しないことが多い。どこの自治体でも同じだが、旧住民と新住民との関係性が問題となってくる。ある程度、新住民をコミュニティに取り込んでいかなければならない。

・(委員)八潮市を発展させるためには、地域住民との協働が必要である。これから退職する人の中には、優秀な人がたくさんいる。退職した後に地域で活躍するきっかけを作って、優秀な人材を発掘する方法について検討してもらいたい。

・(会長)その他、意見等はあるか。

・(委員)コミュニティバスについて、乗車率の調査や運行ルートの検討は行っているのか。

・(事務局)コミュニティバスの運行計画は、総合戦略ではなく第5次八潮市総合計画において取り組んでおり、利用状況やニーズ等について把握をした上で、適宜ダイヤ改正やルートの見直しをしている。なお、大瀬古新田地区が交通空白地となっていたので、バス路線を延伸し、改善したところである。また、コミュニティバスの経費や運賃収入等については、バス事業者から報告がある。赤字部分については、市で補填をしている。例えば、2,300万円の赤字であった場合、その内1,800万円ほどは市で補填をするが、500万円はバス事業者が負担している。

・(会長)その他、意見等はあるか。

・なし

・(会長)最後に全体を通して意見等あるか。

・(委員)昨年の9月から八潮市内の有効求人倍率が急激に上昇している。地元企業の人手不足が深刻である。また、新規学卒者の約4割が市外に就職するといった状況であるので、地元企業へ就職する人が増えるような取組を行ってもらいたい。

・(会長)私の持っているゼミ生に対し、就職する際に地元に戻るのか、首都圏ならどこでも良いのかを聞いている。群馬県、茨城県出身の学生は地元に戻りたいという人が多いが、千葉県、埼玉県出身の学生はどこでも良いと言う。大学のキャリアセンターと連携を取ることで解決の一助となるかもしれない。

## 5. その他

(事務局)来年度の会議の開催や改選について、説明を行った。

## 6. 閉会

以上